

| 調査視察等の報告書 | |
|---|-------------------------------------|
| 30年 12月 19日 | |
| 日進市議会議長 近藤 ひろき 様 | |
| 議員氏名 大橋ゆうすけ 印 | |
| 実施年月日 平成30年11月7日 14:00～16:30 | 行き先 東京都 (早稲田大学 早稲田キャンパス 26号館) |
| 目 的 地方議員研究会セミナー参加のため (SDGs、大学の上手な使い方) | |
| 報告事項 ※報告事項については、別紙参照 | |
| | |
| | |
| | |
| ※別添資料 有 | |

調査視察地等の報告事項

セミナーの概要

セミナーの前半では、岡田久典氏（早稲田大学 環境総合研究センター上級研究員）により、SDGs17の目標についての基本的な解説をはじめ、「SDGs アクションプラン 2018」「SDGs 未来都市」についての解説がありました。

セミナー後半では、永井祐二氏（環境総合研究センター 研究院准教授）により、大学の現状についての解説をはじめ、大学連携及び産学連携についてアメリカとの違いや早稲田大学内での具体的な地域連携事業の取り組みについてご説明を頂きました。

所感

講演終了後の質疑において、2点の質問をいたしました。

質問1:「早稲田大学（サークル活動）において実施する活動を SDGs のどの目標（ターゲット）に関連づけているのか。また、学生に対して理解を深めるためにどのような指導をしているのか。それと同時に、活動をする学生だけでなく、学生を受け入れる各地域（行政や地元協力者）間での SDGs に対する共通認識をどのように持っているのか。」

回答1:「特に SDGs を明確にした活動は行っておらず、各地域での共有もしていない。学生が将来的に横断的な考えを持てる機会を作っている。」

質問2:「地域資源の活用による地域活性や商品開発の言葉はよく耳にするが、5年が経過した中で具体的にどのような結果に繋がっているのか。」

質問2:については、「いずれ SDGs を統括できるような人材育成を目指しているとの事であり、5年前から現在に至るまで全国に PR する仕組み作りを行なっている途中であるため、数字としては持っていない。」

以上の様な回答であり、具体的なスケジュールはないようでした。

日進市は、市内に5つの大学を有し、9つの大学と連携協力協定を締結しているため、セミナーのテーマからかなりの期待を持って参加していましたが、「SDGs を用いた大学の活用」という点では、まだまだ他の事例を調査する必要があります。

永井氏の経験談を伺う中で参考となった点は、「大学の活用」と言うのは、行政目線からの言葉であること。実際には、大学のサークルで自主的に参加している学生たちは、「地元の人」や「役所の職員」の「やる気」を見て行動しているとの事。

そのため、熱心に活動をされる方のもとへは、卒業後も足を運ぶ学生がいるとの事でした。また、その中には、生活そのものを首都圏から田舎へ移行する学生もいるようです。

今後、働き方が大きく変化していく中で、このような優秀な人材を受け入れる体制作りが必要と考えています。